●減災・防災について考える

五十嵐小学校コミュニティ協議会主催の防災訓練



やろてば! 防災女子カフェ~地域で防災活動をしている女性たちの集い 201

地震、台風、豪雨災害は決して他人ごとではありません。地域の防災で大切なこと は地域のつながり。各地でコミ協主催の防災訓練が実施されていますが、8月7日、 地元コミ協では総勢約330人の方々が参加され、倒壊家屋救出救護体験、濃煙体 験、地震体験等々の訓練を実践的に体験しました。また、9月21日は地域で防災 活動をしている女性たちが集まり、女性の視点からの活動内容を交換しネットワーク

*新潟市では6月18日の山形県沖地震では多くの方 が避難所や津波避難ビルへ避難しましたが、避難所開 設基準に該当しなかったため避難所は開設されず大き な混乱が生じました。この経験を踏まえ、今後は津波 注意報が発表された場合143カ所全ての津波避難ビル

を広げました。今後も地域防災に取り組みます。

た。10月12日の 台風19号では全 区で適切な自主避 難者の受け入れ態 勢をとりました。

および6区の避難所144カ所を開設することとしまし



主な活動報告

2019年6月から11月までの

公務のない日は事務所で仕事をしています。 会合やお茶会、相談を受けています。

- **●6月5日**
- 原水禁非核·平和行進 子どもたちに核のない未来を!
- ●6月13日~7月3日
- 新潟市議会6月定例会
- シンポジウム「思春期の子どもの自殺を防ぐ」
- ●7月17日
- 新潟市海岸一斉清掃参加~海のごみを考える
- ●7月23日~25日
- 新潟市議会市民厚牛常仟委員会 行政視察(神戸市、高松市、枚方市)



新潟市議会議員

いしづき幸子 議会活動レポート

新潟市議会

市民ネットにいがた市政報告







●新潟市の産後ケア事業の充実を

「はっぴいmamaはうす」視察

10/3

市民厚生常任委員会で、中央区にある親とよいこのサポートステーション「はっぴい mamaはうす」を視察し、助産師・保健師・小児科医などの「専門職による妊娠期 から切れ目ない包括支援事業しの重要性を認識しました。現在、新潟市の産後ケア 事業は出産後の回復や育児等に不安を持つ母親が7日間まで、母子共に委託医療 機関等に宿泊できるシステムです。今後求められるのは産後デイケアと訪問ケアで す。高齢者のデイケアと訪問ケアのような仕組みができたら、孤立した子育てをし ている人がどれほど助かることでしょう。新潟市にはこうして頑張っている民間施設 が数力所あります。産後デイケア等の事業委託など、官民一体となった本格的な新 潟版ネウボラのモデル事業を推進していきます。

●8月6日

- 原爆犧牲者追悼式参列 74回目の原爆の日に祈り
- ●8月23日~24日
- 第11回生活保護問題議員研修会 in新潟
- ●8月26日~28日
- 市民ネットにいがた、会派視察 (吹田市、京都市、亀岡市、尼崎市)
- ●9月4日~26日
- 新潟市議会9月定例会
- ●9月29日
- コミ協主催、海岸保安林整備事業
- ●10月9日~10月21日
- 2018年度決算特別委員会

皆さまとの対話を大切に。 市民と市政のパイプ役として。

いしづき幸子 ごあいさつ

2期目に入り、新たに「議会運営委員」、 「広報委員会委員長」、「農業活性化特別 委員会副委員長」、「決算特別委員会第3 分科会副委員長」など役割も多くなり、 多忙ではありますが、仕事にやりがいを 感じています。政治は遠い世界のもので なくとても身近なもの、私はそのパイプ 役として、皆さまの身近な議員として、しっ かりと仕事をしていきます。

さて、9月議会に引き続き10月には H30年度の決算特別委員会がありまし た。9月議会については中面に報告して いますが、決算特別委員会の最終日に、 「市民ネットにいがた」は認定の立場か ら以下の意見要望を行いました。概略を お伝えします。

●篠田前市長は H30年度予算案に「基金 が底を突く中、限られた経営資源の選択 と集中を図り基金に頼らない収支均衡 した予算を編成できた」と述べています。 今回の決算においても現執行部は「持続 可能なまちづくりに向け、組織・職員 配置の適正化や全事務事業点検など、 全分野にわたる行財政改革を徹底し、 限られた経営資源を重点課題へ配分する ことで、政令市移行後初めて収支均衡を 達成した」と説明し、前市長も現執行部 も同様に自画自賛しています。

確かに収支均衡を達成するため工夫し、 努力されたことでしょう。しかし、それは あまりに急激な形で、市民生活に大きな 影響と痛みを与えた中で達成したもので

あることを、決して忘れてはなりません。 執行部がこのことを教訓とし、今後、 本当に市民の目線で、市民にしっかりと 寄り添って、市政運営、財政運営を行う 意思があるのか、大いに疑問が残ります。

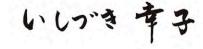
2019年 秋冬号 新潟市議会 市政報告紙

SACHIKO ISHIZUKI

こうした厳しい目で見ている市民がい ることをしっかりと心に留め、次年度以 降の予算編成、市政運営に取り組まれる ことを望みます。

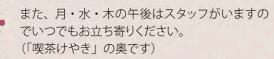
この意見要望が、今後編成される令和 2年度の予算に反映されるよう努めてい きます。

新潟市議会議員



市川房枝政治参画フォーラム2019

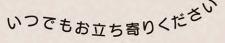
幸子事務所 いつでもご相談を お寄せください



議会や視察のない日は事務所にいます。市政

に関する様々な相談にのっていますので、お気

軽にご相談ください。必要な場合は専門職や行



政におつなぎします。





極いまではいるでは、ではいるでは、ではいるではいった。

TEL 025-201-8413 FAX 025-201-8423 sachiko-ishizuki@grace.ocn.ne.jp

市民ネットにいがた

〒951-8550 新潟市中央区学校町通 1 番町 602-1 TEL 025-228-1000

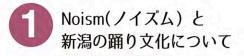
〒950-2076 新潟市西区上新栄町 4-5-82 TEL 090-5318-5607

一般質問 通告

- 1. Noism(ノイズム)と新潟の踊り文化について
- 2. 身寄りのない人の福祉・医療の支援について
- 3. 子ども虐待、その川上から絶つために

一般質問全文は新潟市議会 HPで閲覧できます 「会議録検索 本会議定例会 令和元年9月25日」をご覧ください http://www06.gijiroku.com/niigata/

いしづき幸子 9 議会活動レポート



本市は、2011年「新潟市文化創造都市ビジョン」を策定し世界レベルの文化創造交流都市を目指してきました。しかし、篠田市政から中原市政に替わり、財政難から文化政策も大きく見直しが行われました。Noismは昨年8月が3年延長の契約更新のタイミングでしたが、その判断について1年間だけ期間を延長し検証を行ってきました。議会でも多くの議員が取り上げ、新聞等でも市民から多くの意見が寄せられました。今、Noismの真価を問い直す大切な時と考えます。市民の皆さんの疑問に、正確にわかりやすく説明してもらいたいと思い、以下の質問をします。

- ■日本で唯一の劇場専属舞踊団としての Noismの価値
- ■Noismの検証について
- ■「りゅーとぴあ」の組織の中での Noismの 位置づけと補助金について
- ■今まで本市および「りゅーとぴあ」が検証と課題の改善を図ってこなかった理由と責任
- ■Noismの波及効果と課題に向けた本市の 取り組み
- ■これからの新潟の踊り文化について
- ■にいがた総踊りの魅力と波及効果について

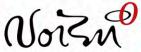


● 市長 答弁

日本で唯一の劇場専属舞踊団としての Noismの取り組みは画期的であり、その芸術性が国内外から高い評価を得ており、本市だけでなく日本の劇場文化の振興にとって非常に意義深く、新潟市の財産と考えます。新潟において15年間こうした活動を精力的に行ってきたその実績と重みがあるということなどを総合的に判断し、契約延長を行うこととしました。

本市では、古くは日本舞踊「市山流」や古町芸妓、地域の伝統 芸能、現代では高校ダンス部や「にいがた総踊り祭」など、多 様で魅力的な「踊り文化」が多数共存し、これらの多様な文化

> が互いに認め合い、影響を与え 合いながら発展を続けています。 その中に存在する Noismは、 今後も新潟の「踊り文化」の発 展に良い影響を与え続けてく れることを期待します。



身寄りのない人の福祉・医療の 支援について

身寄りがなく社会的に孤立している人たちが、様々な場面で排除 や差別にあっている問題は深刻さを増しています。地域包括支援センターの職員さんや、ケアマネージャー、医療ソーシャルワーカー の方々も、身寄りのない方や、身元保証人がいない方の入所や入 院について大変困っている状況です。愛知県半田市では、医療、 福祉、介護、行政がしっかりと連携し、「身元保証等」のない方 の入院・入所に係るガイドラインが作成されていますが、本市も ガイドラインを作成し、身寄りのない人の福祉・医療に積極的に 取り組むべきではないでしょうか。

- ■身寄りのない人の現状・課題の認識とその対応について
- ■死後対応について
- ■中央区の「一人暮らしや身寄りのない高齢者が人生最終段階における医療・ケア」の取り組みについて

- ■区と本庁の連携、今後、本市全域の事業としてどのように 構築していくのか
- ■医療機関の対応の現状と、周知や協力の状況
- ■新潟市版「ガイドライン」の作成について

■ 福祉部長・保健衛生部長 答弁

本市でも、少子高齢化や単身高齢者の増加していることから身寄りがない方や、身寄りがあっても支援を受けることができない方が増えてることは承知しています。家族による支援を前提とした従来の保証人制度が、生活の様々な場面で支障となり、今後は対応が必要と考えます。今年度は、市内全病院の立入検査において現状を把握するとともに、半田市を参考に国が作成したガイドラインなどについて広く周知し、身寄りがない場合でも必要な医療が受けられるよう、病院や介護施設などに対して理解を求めていきます。また、身寄りのない方が病院や介護施設などで亡くなった場合の火葬については、市が火葬手続きを行うことになりますので、生活保護担当課への周知の徹底を図ります。

3 子ども虐待、その川上から 絶つために

相次ぐ虐待死亡事件を受け、児童虐待防止の強化に向けて「児童福祉法」、「児童虐待防止法」が改正されました。改正児童福祉法が「子どもの権利条約」の精神を理念に掲げ、児童虐待防止法では「親による体罰の禁止」を盛り込みました。虐待まではいかなくても育児に悩んでいる親は多く、正しい知識の提供、本音を話せる相談の場、産後ケアの充実がさらに重要となってきます。妊娠・出産に立ち会う産婦人科・助産院はその親子にとって子育てをスタートする場所になりますので、連携を密にすることが虐待防止のカギになると考えます。

- ■児童福祉法等の改正をふまえた本市児童相談所の体制の あり方について
- ■本市が行う子ども虐待予防の取り組みについて
- ■児童福祉法の理念「子どもの権利擁護」の共有について
- ■「乳幼児揺さぶられ症候群」の周知について
- ■妊娠から出産、子育てにかかわる産婦人科医等との連携に ついて





● こども未来部長 答弁

子ども虐待において予防の取り組みが必要不可欠と認識しています。妊娠期から出産直後に支援が必要な妊産婦や乳児については産科医療機関等と情報共有しながら、産後ケア事業の利用や早期の訪問を実施するなど自宅で安心して子育てができるよう、必要な支援につなげています。

「乳幼児揺さぶられ症候群」については父親も含め効果的な周知方法について検討を進めます。同時に児童相談所、区役所、学校、警察などをはじめとした様々な関係機関は、日々の取り組みのなかで、子どもの権利を擁護し、最善の利益が優先して考慮されるよう共通認識をもって対応しています。

障がいのある人もない人も共に生きる 共生社会をめざして

車いすで新潟シティマラソンへ

日本ALS協会新潟県支部長の北条正伯さんは新潟シティマラソンへ車いすで参加しみんなと一緒に「全身に風を受けて走りたい」と夢を持ち続けています。現在、新潟シティマラソンでは、歩道と車道の段差、折り返し地点の多さ、コース全体のアップダウン、1万人を超える混雑等、安全確保の面から車いすでの参加は受け付けていません。どうやったら可能になるのか、北条さんの支援者、議員、担当部署と話し合いを持ち、夢の実現に向けて歩みを進めました。

重度障がい者の働く権利の保障を

2

Sachiko's eye 幸子の目

多くの方からご相談を受けます。今回は共生社会を目指して取り組んでいる課題を 2つ紹介します。時間はかかりますが確実に制度は変わっていきます。

わっていきま を受けま を受けま を き ま り は変わっ は変わっ

変制

重度障がい者の働く権利が保障され、誰もが活躍できる社会の実現を願い、山内俊博さんから「重度障がい者が働くことができるよう通勤や職場における重度訪問介護の利用等、介護サービスの確立を求める意見書の提出について」が9月議会に提出され、継続審査になりました。国でも障がいのある方々がより働きやすい社会を目指し福祉施策と労働施策の連携を強化する「障害者雇用・福祉連携強化プロジェクトチーム」が立ちあがりました。本市も「21都市心身障害者(児)福祉主幹課長会議」において、陳情者の願意と同様の要望をしています。12月議会での採択に向けて継続的に取り組みます。